



平成17年9月20日

関係各位

高千穂交易株式会社
代表取締役社長 山村秀彦
(コード番号 2676 東証第1部)
問い合わせ先
取締役常務執行役員
経営システム本部長 赤堀寛人
電話 03-3355-1111

平成18年3月期中間業績予想(連結・個別)の修正について

平成17年5月10日付当社「平成17年3月期決算短信」で発表いたしました平成18年3月期(平成17年4月1日~平成18年3月31日)の中間期業績予想(連結・個別)を、下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結中間期業績予想の修正(平成17年4月1日~平成17年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期利益
前回予想(A)	11,207	431	230
今回予想(B)	11,443	567	380
増減額(B-A)	236	136	150
増減率	2.1%	31.6%	65.2%
前期(平成17年3月期)中間期実績	11,315	540	260

2. 個別中間期業績予想の修正(平成17年4月1日~平成17年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期利益
前回予想(A)	10,241	393	222
今回予想(B)	10,246	453	264
増減額(B-A)	5	60	42
増減率	0.0%	15.3%	18.9%
前期(平成17年3月期)中間期実績	10,802	417	190

3. 修正理由

中間期業績予想につきましては、セキュリティ事業の業績が堅調であるため、業績見直しを見直し、当初予想を修正するものであります。

(1)売上高につきましては、連結では主力事業のセキュリティ・半導体が、当初予想売上を上回る見通しであります。特に、セキュリティ事業は、リテール分野において大手GMSから大型商談を受注したほか、連結子会社(株)エスキューブの業績も好調に推移したことから、前年同期実績を上回る見通しであります。

個別につきましてもほぼ同様の傾向であります。前年同期に好調だった半導体売上までには届かず、前年同期実績を若干下回る見通しであります。

(2)経常利益につきましては、連結ではセキュリティ事業に加えて連結子会社(株)エスキューブ・高千穂コムテック(株)・高千穂ユースウェア(株)を含むシステム機器事業セグメントの売上増加と、販管費を当初計画比で約5%圧縮できることから、前回予想を大幅に上回る増益見通しであります。個別につきましても同様の見通しであります。

(3)当期純利益につきましては、投資有価証券の売却益378百万円等があり、前回予想を大幅に上回る見通しであります。

個別でも、当社保有の(株)エスキューブ株式の減損損失203百万円及び高千穂ユースウェア(株)の株式売却損23百万円を計上するものの、前回予想を大きく上回る見通しであります。

(4)グループ事業の見直し

当社は「ハイ・パフォーマンス経営」を進めておりますが、常に、事業ポートフォリオの最適化と事業シナジーの活用に努めるとともに、経営構造を改革し、企業価値増大を図っております。今回、連結子会社について、次の見直しをするものであります。

(株)エスキューブ株式の減損会計適用

同社は平成14年10月に買収後、満3年目に至る現在、当初事業計画を大きく下回る業績が続く、ようやくグループ業績寄与への目処がつかしましたものの、同社株主資本は当社子会社株式金額を大きく下回った状態が継続し、早期回復が困難なことから、減損会計を適用し、203百万円を損失処理するものであります。

高千穂ユースウェア(株)の株式売却

同社は企業向けデータエントリー機器販売及びソフトウェア開発・販売等の事業を営んでおりますが、近年、企業セキュリティをコンセプトとする当社グループ事業との事業シナジーも少ない状況に至り、事業見直しを検討しておりました。今回、事業ノウハウや顧客等との関係が強い同社役員・従業員へMBOによる株式売却を行い、株式売却損23百万円を計上するものであります。

4. 通期について

通期業績につきましては、現時点では半導体事業等における市場等の不確定要素等もあり、当初予想通りといたします。

当社は、引き続き事業戦略を強力に推進し、業績の向上に努めてまいります。

この資料の予想は、本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、多分に不確定要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上